

## 平成 28 年度環境配慮型 C C S 実証事業概要資料作成要領

### <構成>

- ① 概要資料（１）事業概要 【１枚】
- ② 概要資料（２）事業の必要性 【１枚】
- ③ 概要資料（３）事業の効率性 【２枚】
- ④ 概要資料（４）事業の有効性 【１枚】
- ⑤ 平成 28 年度～平成 32 年度の予定 【各 1 枚】
- ⑥ 参考資料（図表・写真等） 【３枚以内】

### <注意事項>

- ・表紙は不要です。
- ・枠の大きさの変更、参考資料以外のページの追加・削除はしないでください。
- ・文字ポイント数は 10 ポイント以上（図表中の文字は任意の大きさとする）としてください。
- ・箇条書きや図表等により簡潔に整理してください。

### （１）事業概要

#### ①事業概要

事業の概要について、平易な表現で、一読して分かるよう記載してください(200 文字程度)。

#### ②技術開発・実証事業の詳細

本事業の具体的な内容を、各要素技術／システム等に分けて簡潔に分かりやすく記載してください。

#### ③期待される C O 2 削減効果

本事業の成果により、中長期的に期待される C O 2 削減効果を「地球温暖化対策事業効果算定ガイドブック<初版>（平成 24 年 7 月環境省地球環境局）」等を参考に算定して記載してください。統計データを使用した場合は、出典を明記してください。

##### ●ガイドブック

[http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz\\_local/subsidy/santei\\_gb/guidebook.pdf](http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz_local/subsidy/santei_gb/guidebook.pdf)

#### ④導入する二酸化炭素分離・回収設備等の概要

想定される機器の写真等を用いつつ、簡単なシステム図を記載してください。核となる技術、P R ポイントを明確にしてください。

- ⑤本事業に実施に係る関係者の合意等の状況について  
提案書等、提出時点での調整状況等を記載してください。

## (2) 事業の必要性

### ①社会的意義

温暖化対策施策を推進する上での技術・システムの社会的・経済的・行政的な重要性について、(1) ②の項目毎に簡潔に、かつ分かりやすく記載してください(適宜図表を用いても構いません)。また、事業の成果が、今後どのように、規制や制度の導入等につながると考えているか記載してください。

### ②技術的意義

技術・システムの実用性・先導性・発展性について、(1) ②の項目毎に簡潔に、かつ分かりやすく記載してください。

## (3) 事業の効率性

### ①実施体制

事業実施体制について、各事業実施者が実施する業務内容及び分担業務を、関連した分野の知見・過去の業績とともに簡潔に記載してください。

図示いただく範囲は共同実施者までで結構です。

### ②実施計画

事業の工程及び各年度の事業費について(1) ②の項目毎に記載してください。

## (4) 事業の有効性

### ①目標設定・達成可能性

本事業で開発する設備やシステム等の最終的な目標について、(1) ②の項目毎に具体的に記載してください。

内容に応じて、開発規模・仕様、性能(従来品との比較、優位性)、コスト(従来品との比較、差額)等について記載してください。

### ②事業化・普及の見込み

本技術開発事業による事業化・普及の見込みについて記載してください。普及のためにインフラ等が必要となる場合は、それらの概要・コスト等についても記載してください。

### ③その他

本事業を実施する上で今後の展開等、PRしたいことを、適宜図表等を用いながら自由に記載してください。